

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	経済学		
担当者(Instructors)	中山 孝男	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

経済学の基礎的内容を、15回に分けて講義する。ここでいう「基礎的内容」とは、就職試験、各種資格試験等において最低限必要な事項、および将来社会人として活躍する際に身につけておくべき一般常識の1つの分野を意味する。下の授業計画を見てわかるとおり、この授業では経済について浅く幅広いテーマを取り扱う。どの分野でもよいが経済(学)に興味を持ち、現実に行っている経済現象の意味および他の出来事との関連が少しでも理解できるようになってもらえる授業としたい。そのためにも、受講生には予習・復習などでの約束をきちんと守ってくれることを期待する。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	テキストとなる文章は、毎回Teamsなどを通して配布するので、しっかりと予習すること。また、予習を確実にしているかを確認するための「確認問題集」は、第1回目の授業で配布する。これを毎回予習のための教材として利用してほしい。そうした前提で授業においては、テキストに書かれたもの以上のことに触れていきたい。その際、できる限り現実の経済の動きが理解できるように最新の経済ニュースを取り上げて、それについて解説する時間をとりたい。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	この授業の概要説明と授業の進め方など	この授業で学ぶ目的、学ぶ内容、および授業の進め方を説明し、履修する上での注意点、受講する際の約束、成績評価の方法などを伝え、互いに確認する。	<input type="checkbox"/>
第2回	現代の経済社会(1)	経済社会の変容、経済主体と市場の動き	<input type="checkbox"/>
第3回	現代の経済社会(2)	企業の役割、国民所得	<input type="checkbox"/>
第4回	現代の経済社会(3)	経済成長と国民福祉、金融の役割、日本銀行の役割	<input type="checkbox"/>
第5回	現代の経済社会(4)	財政の役割と租税、日本の財政の課題	<input type="checkbox"/>
第6回	現代の日本経済(1)	戦後復興から高度経済成長へ	<input type="checkbox"/>
第7回	現代の日本経済(2)	安定成長からバブル経済へ	<input type="checkbox"/>
第8回	現代の日本経済(3)	現代日本経済の課題、中小企業と農業	<input type="checkbox"/>
第9回	現代の日本経済(4)	消費者問題、公害防止と環境保全	<input type="checkbox"/>
第10回	現代の日本経済(5)	労働問題と労働者の権利	<input type="checkbox"/>
第11回	現代の国際経済(1)	貿易と国際収支	<input type="checkbox"/>
第12回	現代の国際経済(2)	外国為替市場のしくみ	<input type="checkbox"/>
第13回	現代の国際経済(3)	第二次世界大戦後の国際経済と地域経済統合	<input type="checkbox"/>
第14回	現代の国際経済(4)	金融のグローバル化と発展途上国の諸問題	<input type="checkbox"/>
第15回	総まとめ	全体の総復習	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習: テキスト文を読み、「確認問題集」の問題を解く(90分)。事後学習: 「確認問題集」の正解を確認し、授業で扱った応用範囲を復習する(90分)。これらに加えて、事前・事後学習の両方の意味で、毎日10分以上新聞(とくに経済面)を読む(70分以上)。

## ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

「確認問題集」の解説は、毎回授業開始時に行う。また、小テストを実施した場合は、その次の授業時に採点した答案用紙を返却した上で、詳細に解説する。授業内試験の正解は、Teams等で伝える。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	テキストの内容が理解できる。 社会の動き（とくに経済）とその意味を考えることができる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			90%	10%
<b>授業内試験等(具体的内容) (Specific contents)</b> 最終回に総復習を行ったあと、授業内で試験を行う。また、いわゆる小テストを何回か実施し、全体で100%の評価をする。				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	なし（前述の通り、テキスト代わりになる文章はTeamsなどを用いて事前に配布する。）	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	武田晴人『高度成長』岩波新書、2008年	978-4-00-431049-5
2	山家悠紀夫『日本経済30年史ーバブル経済からアベノミクスまでー』岩波新書、2019年	978-4-00-431799-9
3	日本経済新聞社編『戦後日本経済史』日経文庫、2022年	978-4-296-11319-4
4		
5		